

かながわ子ども教室

ニ

ュ

ー

ス

第90号

理事長退任のご挨拶

特定非営利活動法人 かながわ子ども教室
勝浦 嗣夫



5月31日の任期をもって、NPO法人かながわ子ども教室（以下「会」といいます）理事長を退任することになりました。後半は新型コロナに振り回された激動の4年間でしたが、無事任期を完了できましたのは皆様のご指導ご協力の賜物と心から御礼申し上げます。この4年間を振り返ってみます。

当会の本業と言える教室開催では、先生役（新しい教科の開発・新講師によるリニューアル：2018年度「海洋」「ロボット」、19年度「私たちのからだ」、20年度「子どもの化学」「たのしい実験室」「ふしぎなみえ方」、21年度「プログラミング」「世界」）、地区担当役（新規開催場所の開拓・相手先との調整など）、サポーター役（教室での要改善点の指摘など）の体制で、コロナ禍の厳しい状況の中でも、開催回数は大幅に減少しましたが、アクティビティの維持・向上に努めていただきました。また、3密回避のための、Zoomによる教室も先方の協力も得ながら複数回開催にこぎ着けることができました。

運営の基盤とも言える財政面では、東京応化科学技術振興財団（TOK）、ダイヤ高齢社会研究財団から継続的に助成金を戴くことができ、謝礼金の可能な範囲での増額努力なども相まって、安定的な会の運営が可能な状況となっていることは、心強いことです。

会員は、この4年間で、入会者8人（薄口、金子、船木、真瀬、田口、野本、牛窪、諏訪の諸氏、入会順）、退会者11人（鳥居、阿座上、藤井、渡部、部谷、舟木、望月、綿引、竹村、種田、繁本の諸氏、退会順）で、都合3人の減少となっています。会の活力の維持・向上のためにも、新入会員の勧誘にはさらに力を入れていく必要があります。

ホームページでは、教室開催風景の動画のアップデート、会員ページの教室開催報告書、会議事録などデータベース機能の拡充などを進めてきました。

コロナ禍で、教室開催回数も大幅に減少し、また、実行委員会などで会員同士が直接交流する機会も殆ど奪われてしまいましたが、Zoomによる実行委員会説明会、懇親会などで多少なりとも交流の代わりができたのではないかと考えています。

当会はシニア世代が知識や経験を生かして「理科好きの子どもを育てる」「子どもの健全な人格形成に寄与する」ことを目的として、「高齢者の自立と生きがいづくり」を願って活動をしています。私自身、この会での活動がなかったらどんな生活になっていただろう？と思わざるを得ないほど、この会の活動は高齢者の元気の維持増進に適したものと言えるのではないのでしょうか。

このたび小島さんに理事長職を引き継いで頂く事になります。今後は新理事長のご指導の下、一理事として引き続き頑張りますのでよろしくお願い申し上げます。新型コロナが収束して、従来通りの活動を再開できる日が1日も早いことを祈って退任の挨拶とします。

新入会のご挨拶

諏訪 秀則



4月に入会致しました諏訪秀則（すわ ひでのり）と申します。昭和26年6月生まれですので今年で71歳になります。早稲田大学理工学部大学院を修了後日本真空技術（現アルバック）に入社し、真空装置の開発や製造販売に携わってきました。退職後はスタートアップ企業を支援する団体に所属し活動しておりましたが、最近になってもっとボランティア色の強いことをやってみたいという思いが強くなりました。「かながわ子ども教室」については本会の会員である森英敏さんからたびたびお話しをお聞きしていて興味を持っておりましたので、「かながわ子ども教室」での子供向け理科教育、特に真空に関して子供達に解りやすく教えることに取り組みたいと思い立ち、森さんに相談したところ快くご紹介下さり入会させて頂いた次第です。「ダイヤかながわ交流会」に関しては、「子ども教室」入会に先立つ理事長、副理事長との面談の際に紹介があり併せて入会させて頂きました。

真空は全ての産業分野で活用されていると言っても過言ではないにも関わらず、それが余り知られておらず、また真空そのものも良く理解されていないように思うので、教え甲斐があるテーマだと思っています。しかし、いざ真空について子供達に教えるとなると、子供向けに説明や実験をどのようにやるか難しいことが多く、本当にできるのか心配ではありますが、これからいろいろな教室のサポーターを経験し勉強させて頂いて、考えていこうと思っています。サポーターとしてどれだけお役に立てるか分かりませんが先輩会員の方々には宜しくご指導のほどお願いいたします。

「ダイヤかながわ交流会」は三菱系企業のOB会がベースであるとお聞きしております。現役時代に顧客として多くの三菱系メーカーとお付き合いさせていただきました。そのようなことからこの会に親しみを感じますし、その頃接触のあった方に再会するようなこともあるかもしれないというような期待感もあります。どうぞよろしくお願いいたします。

3年ぶりの川崎市青少年フェスティバル参加

松下 恵造



川崎市青少年フェスティバルは川崎市の主催で、高校生・大学生が企画と運営に関わり、小学生・幼児が川崎市とどろきアリーナに来場して様々なふれあいと体験ができるイベントです。

かながわ子ども教室がこのフェスティバルに初めて参加したのは2010年3月（2009年度）で、川崎市ガールスカウト連盟の要請に応じたものでした。初回参加以降、大竹委員を中心に川崎市・こども未来局青少年支援室と交渉の結果、①当方「おもしろ科学実験教室」のブースをとどろきアリーナ入口付近の好位置に配置する、②「おもしろ科学実験教室」チラシの近隣小学校への事前配布に川崎市教育委員会のご協力をいただき、③その後の参加経費の一部助成（謝礼）開始等、川崎市からご配慮をいただけるようになった経緯があります。

今年度（2021年度）の川崎市青少年フェスティバルは3月13日にとどろきアリーナにて開催され、当教室から14名が参加しました。コロナにより2019年度と2020年度が中止とな



<プログラミング教室>

ったため、3年ぶりの開催となります。未だコロナが収束した訳ではないので、来場者は午前、午後各150組（1組4人まで）の事前予約をされた方に限定さ



<ぶんぶんゴマ工作教室>

れ、密を防ぐ形で実施されました。会場での換気対策や什器/道具の消毒剤、検温や手の消毒剤も十分に準備されていました。今大会のテーマ「作る」に沿ってメインアリーナ内には7団体による工作ブースが設営され、当教室も「作る」に合わせて「おもしろ科学工作教室」（3教室：ぶんぶんゴマ工作、ふしぎな見え方工作、プログラミング）を開催しました。

9:00から教材準備と応援の青少年ボランティアスタッフ（中、高、大学生）への説明を開始し、10:00の開場後には直ぐに親子の来訪が始まりました。来訪の子ども達には、やりたい教室を決めて来る子と受付で迷ってから決める子がいましたが、教室が始まると皆熱心に取り組み、楽しんでいる様子が見られました。3教室は30分毎の入替え制で実施しましたが、各回とも満席が続き、来場者は午前・午後合計で子ども148人、大人107人と大盛況でした。会場来場者のほぼ半数が当ブースを来訪したことになります。来場者整理用に準備した教室毎の「予約票」は整



<ふしぎな見え方工作教室>

理に有用で、さらにスタンプラリー用紙で当工作ブースのみに「予約票配布」と記載されたことは集客にも効果があったと思われます。

以下に各教室でのトピックスをご紹介します。

●ぶんぶんゴマ工作（定員6名/回）：ハサミが上手く使えないと、直ぐに手伝う親と遅くても最後まで頑張らせる親がいました。

●ふしぎな見え方工作（定員6名/回）：未就学児には「盲点実験」や「クレーター錯視」は難しかったが、小学生になれば「盲点実験」で興味ある反応も示していました。

●プログラミング（定員5名/回）：保護者も含め子ども達は熱心にプログラム作成に取り組み、楽しそうにかつ真剣に取り組んでいたのが印象的でした。さらに、もう少し家庭で「プログラミングゼミ」を触って見ようとの嬉しい話もありました。

先生・サポーターと青少年ボランティアスタッフの皆さんのお陰で無事終了できましたが、皆さんが午前中2時間、午後2時間立ちっぱなしになってしまい、この点については次回に同様企画で教室を開催する場合は改善が必要です。

最後になりましたが、川崎市子ども未来局青少年支援室の皆様はコロナ対策を優先した企画立案と運営に尽力され、当教室にも企画段階から助言と応援をいただき、感謝いたします。いつも当教室に来場・体験される川崎市の福田市長は所用で来られませんでした。伊藤副市長が当方ブースを外から見学されていたことを後で知りましたが、教室を体験いただけなかったことは誠に残念です。



<当方参加者と応援の青少年ボランティアスタッフ3名>

<かながわ子ども教室> (小島啓三郎)

令和3年4月から令和4年3月までの1年間の活動について、報告いたします。

この1年も、新型コロナウイルス蔓延に悩まされました。4-5月の第4波が収まり、6月、7月には教室が開催できましたが、第5波の影響で例年多くの教室が開催される8月はリモートの1回のみ、9月も0になりました。やっと10月から順調に開催できるようになり、下期は例年並みの開催が期待できると思われましたが、第6波の影響で2月も0になり、結局63回の開催にとどまりました。

準備を進めてきた「プログラミング」教室が本年度2教室で実施、そして、きちんとした3密対策が講じられた川崎青少年フェスティバルの中でもソフトを「作る」ということで参加しています(松下会員の報告を参照)。また、リニューアルした「世界」教室はオリンピックの開催もあり、リモート1回を含め6回開催しております。

この結果、科学20教室、暮らし4教室の24教室の体制となっておりますが、現在、2つの教室(電池、真空)の準備が進められており、新年度中にはラインアップに加わる予定です。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
科学教室	110回	20回	55回
暮らしの教室	17回	2回	7回
フェスタ	4回	0回	1回
会員参加者	912人	87人	309人
児童参加者	4,576人	468人	1534人
教室	(3,369人)	(468人)	(1386人)
フェスタ	(1,207人)	(0人)	(148人)
保護者等参加者	1,271人	85人	353人

会員としては本年度は4名(綿引さん、竹村さん、種田さん、繁本さん)が退会され、三菱化学OBの牛窪さんが入会されました。本年4月に諏訪さんが入会されましたので、現在、40名の会員が在籍されています。